

丸亀市(仮称)みんなの劇場整備計画
【基本方針抜粋版】

令和2年3月
丸亀市

第1章 みんなの劇場の基本方針

I 基本方針

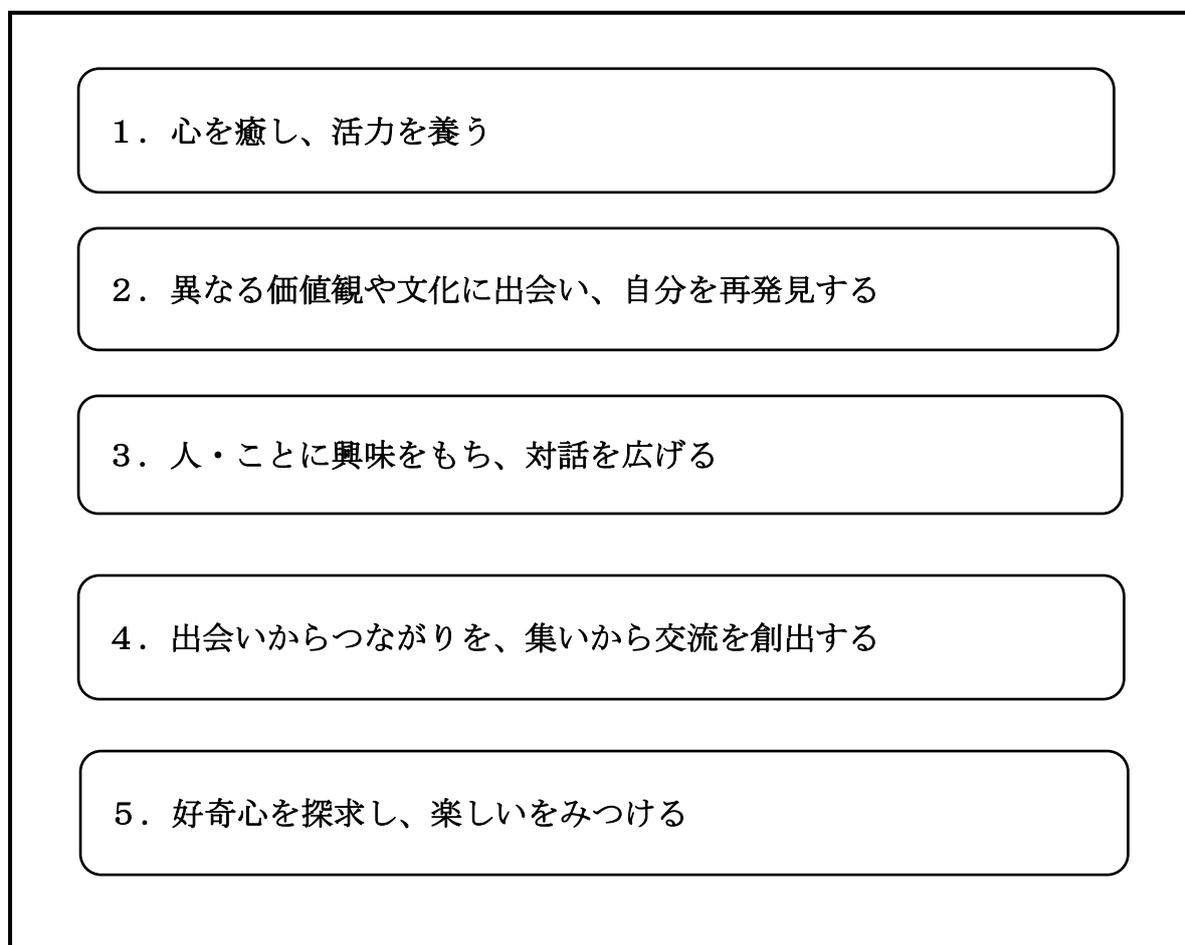
(仮称) みんなの劇場基本構想(平成30年12月策定)で定めた「基本理念」を達成するための基本的な方針は、次のとおりとします。

【基本理念】



3つの基本理念を達成するために、5つの基本方針(戦略)を定めます

【基本方針】



1. 心を癒し、活力を養う

大切なプレゼンテーションや発表会のように張りつめた緊張の後や、人間関係がよくない職場で働くなど、「気」をたくさん使うとどっと疲れを感じます。

また、誰も必ず大切な人との別れをはじめ、受け入れがたいと思うような出来事と出会いますが、そんな辛さや苦しさを人間の心はあらゆる策を講じながら受け入れていこうとします。そうした心の働きには、体を動かすための食事や体を強くするための運動と同じように、心のエネルギー補給や感情の変化を伴う体験が心の安定と成長を促します。

音楽を聞いたり映画や演劇を観た後に、悩みが吹き飛んだり、許せないような出来事が少し許せるようになったり、重かった心が軽くなるような経験をしたことがあると思います。

私たちは、何かに感動するなど強く共感した時に、心が熱くなったり、心がギュッと押し付けられるように感じたり、心の深層が激しく揺さぶられているように感じます。

そうした経験の後は、心の許容量が少し広がったと感じ、世界が少し新しく見えたりすることがあるように、心を揺さぶる体験が心を広くしたり、強くしたりします。

音楽やダンス、演劇をはじめとする文化芸術を介して、人はそうした感動や共感、時には経験したことのない体験や感情を追体験しながら、自分自身の心や在り方と対話することで自身の感覚や感受性を育み、内なる世界を広げていくものです。

自分自身を成長させたい時や活力を補充したい時だけでなく、人間関係で悩んでいる時や子育てや介護、病気や怪我に苦しむ時、どうしてもやる気が出ない時などに、心と体を養生、療養できる場が必要なのだと思います。

心が安定し、成長することで、体も自然と健康になっていきます。

みんなの劇場は、作品を観たり、体を動かしたり、人と出会ったり、自分のスタンスで心と体にエネルギーを補給し、新しい明日へと歩いていける活力を養える場となります。

2. 異なる価値観や文化と出会い、自分を再発見する

日本独自の文化を知るためには、外国の文化を知り、その違いに気づかなければいけないように、自分を知るためには、自分以外の人のことを知ることが重要です。

地域やまちについても同じことがいえます。長年同じまちに住み続けていると、そこにある特性が当たり前になり、気にすることがなくなりますが、違うまちを訪れると、そこに住む人やまちの特性を感じると同時に、自分達が住む地域やまちの特性に気付くことができます。

私達は、相手と自分と価値観や考え方が似ていると思えば、その人のことをもっと知りたいと思いますが、自分とは違うと感じる人には抵抗を感じ、距離を置きがちになります。お互いの違いが脅威やストレスに感じる時には攻撃的な言動につながることもさえます。

しかしながら、この自分とは違うと感じる人こそが問題解決の糸口を開き、飛躍させてくれる存在だったりもします。

なぜならば、自分とは価値観や考え方が違う人は、自分と異なる世界で異なる価値観や尺度を持って生活をしているので、自分にとって思いもよらない視野や人脈などを持っていることが多いのです。

相手と自分との違いを知り、相手が見ている景色を一度同じ目線で見えてみることでできたなら、新たな発見や気づきがあるはずですし、今の自分自身について深く知ることもできます。

アイデンティティは、異なる文化や慣習、社会背景に出会い、自分と他者の共通点や相違点を知ることによって更新されていきます。

様々な地域性や身体的特性、精神的特性を持つアーティストと出会ったり、様々な作品に触れることは、異なる文化や社会的背景、価値観や感性と出会うことになり、自分自身や自分達が住むまちの特性を再発見する機会になります。

みんなの劇場は、多様性の中で自分と他者の違いに気づき、自分を再発見できる場となります。

3. 人・ことに興味を持ち、対話を広げる

近年、「対話」という言葉にスポットがあてられることが多くなりました。

対話とは、異なる価値観や思考を持った人と情報を交換し、価値観をすり合わせていくという意味もあります。

また、対話には「相手に興味をもち」、「相手の価値観を受け入れ」、「新しい答えやつながり方を創り出していく」という重要な要素があります。

多くの人にとって、芸術作品の鑑賞は自分にとって面白かったか、心地よかったかといった自分の中だけで消費されるものとなりがちですが、100人いると100通りの受け取り方がありと云ってもよいほど、人の価値観や視点には違いがあります。たくさんの人が評価する作品もありますが、そうでない作品もあるように、芸術作品の価値は見る人の生き方や心の中にあるのです。

そのような価値観や視点の違いを受け入れ、すり合わせながら自分の中で新しい捉え方を創り出していくような対話を通じた鑑賞は、自分の中で新たな世界の広がりを生んでいきます。

自分以外の人があるがどのように受け取り、どのように感じたのかなど、様々な感性や価値観の交換を行うと、「なるほどそういう見方もあるのか！」と驚くような発見をすることもあります。

また、芸術作品は、作り手が直面した様々な疑問や自己矛盾との葛藤、あるいは新しい気づきや発見の断片から生み出されたものともいえます。私達は芸術作品を鑑賞する時、作品としての「もの」を鑑賞していますが、実はその奥には作品が完成するまでの「こと」が幾重にも積み重ねられています。

出来上がった「もの」としての作品を鑑賞すると同時に、芸術作品が出来上がるまでの「こと」も含めて鑑賞・体験することは、作り手が積み重ねてきた関係性や物語と出会うこととなります。

それは、今まで自分がどういう人生を歩んできたのか、社会や地域とどうかかわってきたのかということと問われると同時に、これからどういう人生を歩んでいくのか、社会や地域とどうかかわっていききたいのかなど、芸術作品を通じた自分自身との対話となり、新しい気づきを得たり、固定観念が変化するなど、人間の幅を広げていくものとなります。

みんなの劇場は、「人」や「こと」に興味をもって対話ができる機会を提供し、世界観を広げていける場となります。

4. 出会いからつながりを、集いから交流を創出する

良い人間関係は、やる気や幸福感など、人間の本質的な部分を向上させ、生活や仕事の質にいい影響を与えるばかりか、健康な心や体を育んだり、脳機能の低下を軽減するという研究結果があります。

また、様々な年齢や職業、価値観の持ち主など人間関係の中の多様性が高いほど、創造性や生産性が向上するといわれています。

出会いや集いの機会は普段の生活の中にもたくさんあるものです。しかし、出会いや集いを、つながりや交流に変えることは意外と難しいことかもしれません。

全く見知らない者同士が初めて出会った瞬間の気まずい状態を乗り越えるためには、お互いの接点がどこにあるのかという共通項を探すことが必要です。

多くの人は異なる価値観や世界観、社会的背景の持ち主と出会った時、そう簡単に共通項を見つけることはできません。

では、つながりを持つためにはどうすればいいのでしょうか。

演劇や映画を見て、自分とは全く異なる生き方をしている主人公や、経験したことのないストーリーに感動できるのは、主人公の体験や経験を知り、その物語を追体験することで、自分と共通する部分を見つけ、共感できるようになるからです。

このように、つながりをつくるためには、表面だけではわからない自分と他者の共通項をどうやって見つけていくかが鍵となります。

一方で、共通項は新しくつくることもできます。一つの目的や目標に向かって共同作業をしたり、助け合ったりするだけでも、普通の付き合い以上の心のふれあいが生じることがあります。

演劇やダンス、音楽などは、絶対的な正解があらかじめ決まっていないという特性を持っています。正解があらかじめ決まっていないということは、間違っている人や排除される人がいないということです。そのような特性を、体験の共有やコミュニケーションの媒体として取り入れることで、見知らない者同士の壁を取り払い、新たな共通項をつくることのできるのです。

みんなの劇場は、出会いと集いの間に文化芸術を使った体験を取り入れることで、新しいつながりと交流を生み出し、創造的なまちを形作っていきます。

5. 好奇心を探求し、「楽しい」を見つける

楽しく人生を過ごすためには、自分の心に忠実に、心の底から楽しいと思えるものや場所が必要です。

楽しいと感じたことや心に響いた体験や経験が、能動的な学びや目的を持って取り組むということにもつながっていきます。

良い学歴を得るためだけに嫌々勉強をしたり、お金やもののためだけに仕事をするのではなく、好奇心をもって楽しみながら取り組めたら、おのずと目的や夢ができるものです。

もし、今楽しめることが見つからないのであれば、いろいろなことに触れ、経験し、感じる機会を増やし、その中から「楽しい」や「ワクワク」を見つければいいのです。

人間は本来、新しいものや新しいことに対して好奇心を持つことができる生き物です。誰もが子どもの頃は新しいもの、知らないものに対して目を輝かせながら没頭できたはずで、大人になると常識や自分の枠を作ってしまったたり、時間や社会的な制約の中で好奇心を失いがちですが、大人になってもまだまだ知らない世界がたくさんあります。

自分の中の好奇心を意識的に思い出し、好奇心の赴くまま世界をもう一度体験しに行きましょう。たくさんの人やもの、ことと出会う中で、自分の中で反応するアンテナや引っかかるフックが増えてくるはずで、その中で「これだ！」という気づきが得られた時、その面白さは何にも代えがたいものです。

長い人生において、「新しいことを学び、新しいスキルを身につけていく」ことが必要だともいわれていますが、「新しいことを楽しみ、新しいスキルを身につけていく」ことができれば充実した人生だと感じられると思います。

一人でも多くの人が、前向きな気持ちで「楽しい」を探求し続け、視野を広げたり、新しい気づきに出会い続けられることが、人口減少や超高齢社会においても、一人ひとりの豊かな人生と持続可能な社会を形成するための基盤となります。

みんなの劇場は、常に好奇心を探求し続けることができるステージを準備し、人生に充実感を与える場となります。
